

人口推計について

【資料3】

人口の推計は基準年人口と、変化率(純移動率等と合計特殊出生率の仮定)から行う

- ①基準年人口は国勢調査の最新値(確報)である2020年人口を採用
- ②純移動率等は2010年－2015年の移動実績等(2015社人研仮定値)を採用
- ③合計特殊出生率は、前回社人研推計では1.50程度として設定されていたが、先頃公表された全国推計ではコロナ禍等による低迷(前回推計と0.08ポイント乖離)とされているため、塩尻市も同水準の低迷を採用

長期的に投影する塩尻市の合計特殊出生率 1.50 → 1.42

令和5年4月26日公表社人研による将来推計人口から

【主要な結果】

1 前回推計(平成29年)と比べ、**将来の合計特殊出生率は低下**、平均寿命はわずかな伸び、外国人の入国超過数は増加

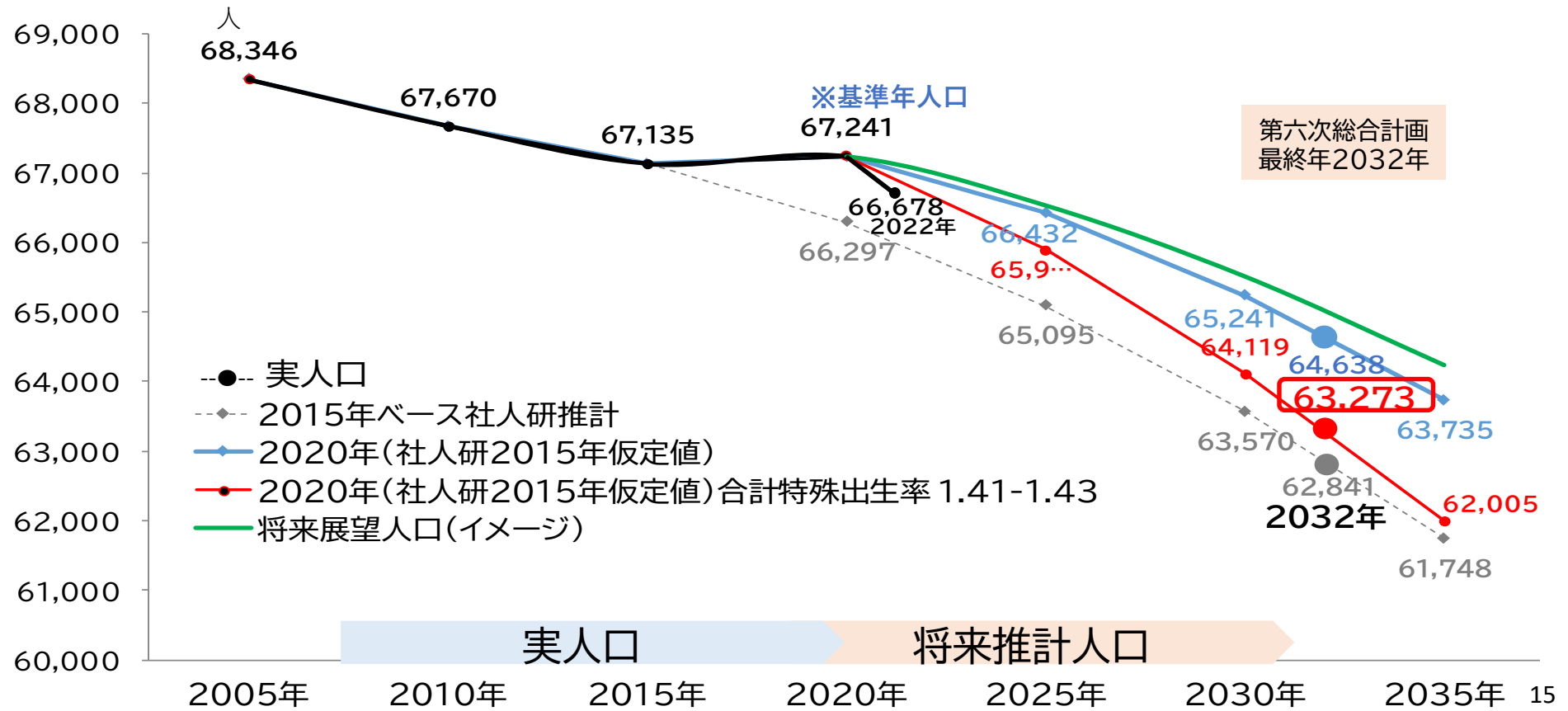
・合計特殊出生率は、新型コロナウイルス(COVID-19)感染拡大以前から見られた低迷を反映し、長期的投影水準は、**前回推計の1.44(2065年)から1.36(2070年)に低下**(中位仮定)。

△0.08ポイント

実績・推計の人口

- ・人口の実績(黒)は、2024年更新前の社人研推計値(点線)を上回って推移
- ・通常手法の①基準年(2020年)人口と②純移動率等(2010-2015年の移動)による推計(青)では、2032年(第六次総合計画最終年)は64,638人となる。
- ・コロナ禍影響を考慮した③合計特殊出生率(平均1.42)を加味した推計(赤)は、第六次総合計画最終年2032年は63,273人となる。

これ(赤)を第六次総合計画の策定のベースとなる推計として、今後展望人口(緑色)を検討する



基準推計人口の年齢3区分割合

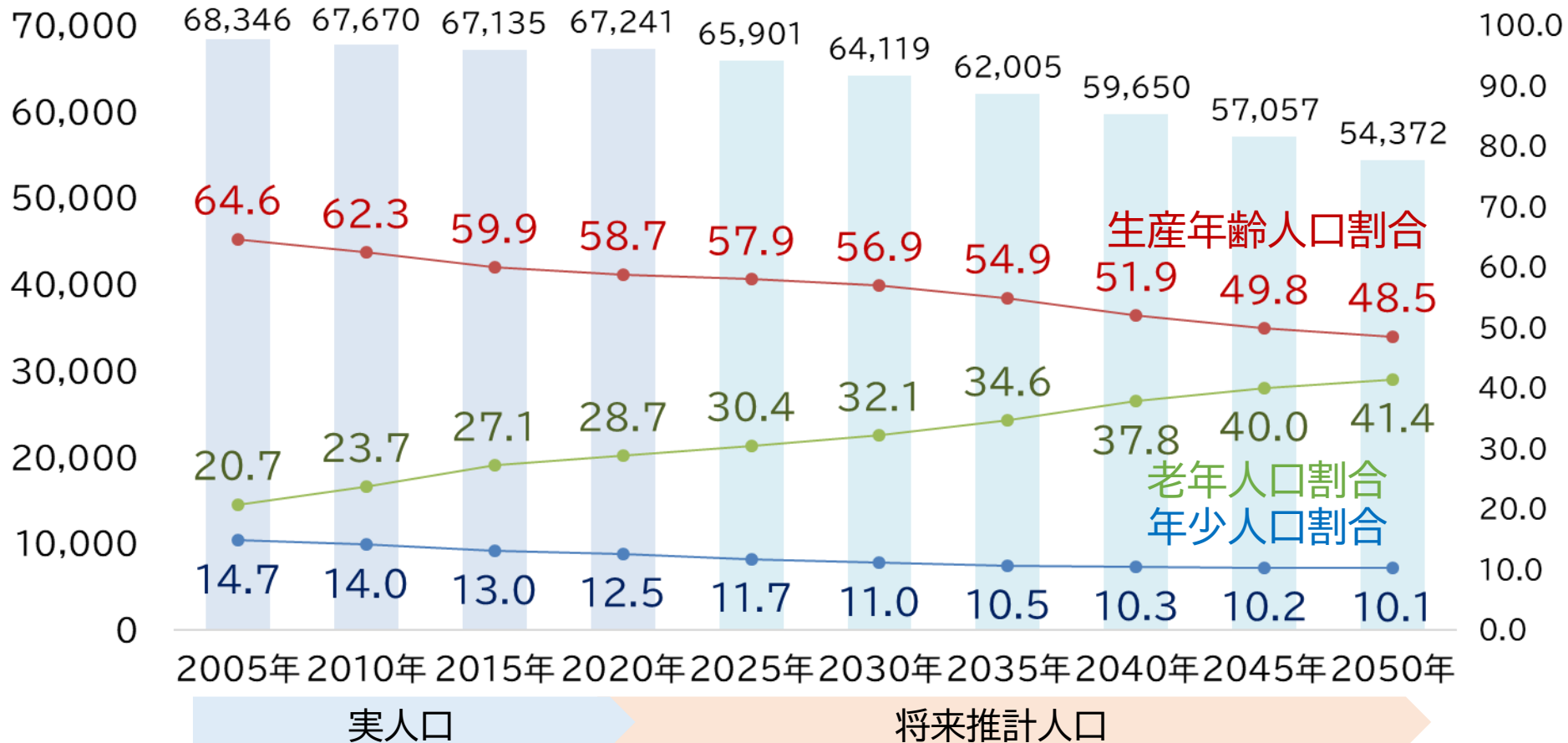
◆補正後の推計人口による年齢3区分人口構成比

・基準人口である2020年と2050年を比較すると

年少人口割合 12.5% → 10.1% (△2.4ポイント減少)

生産年齢人口割合 58.7% → 48.5% (10.2ポイント減少)

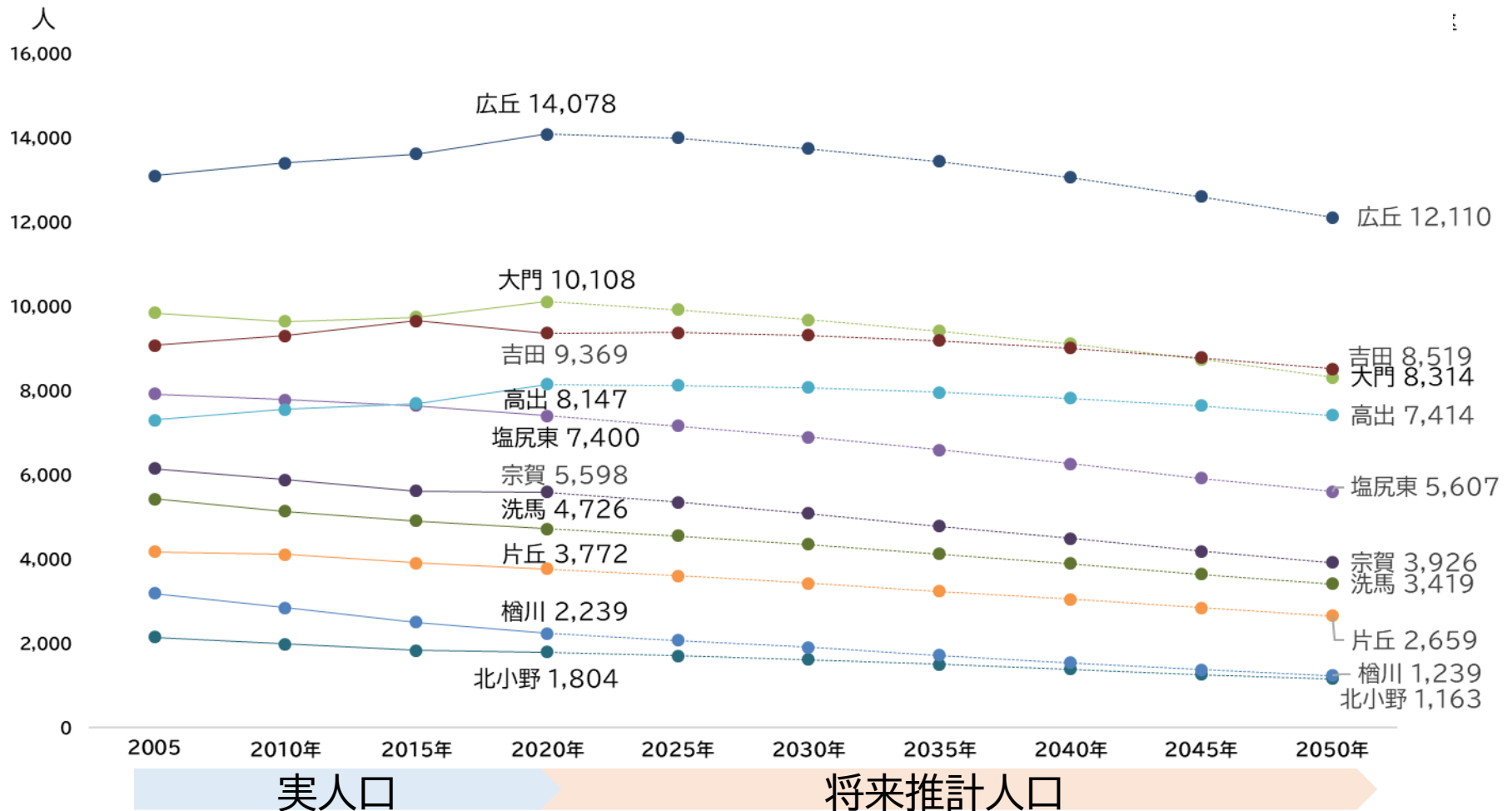
老年人口割合 28.7% → 41.4% (12.7ポイント増加)



地区推計人口

◆塩尻市全体の純移動率等を適用した地区別推計人口

- ・人口規模・年齢構成が影響するものの、各地区減少の傾向はほぼ同様となる。
- ・中山間地では実際は減少が推計よりも大きくなる。



地区推計人口(地区別純移動率)

◆地区別の純移動率等を適用した地区別推計人口

- ・地区別に算出された純移動率を適用すると、塩尻市の全体純移動率と比べて、都市部の減少率が抑えられ、中山間地の減少率が高まる推計となる。

